



運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和8年1月号 第236号

(令和8年1月15日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp

◆新年あけましておめでとうございます 事務局長 鈴木 正一

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと思います。

さて、昨年も、生活学校・生活会議連絡協議会が実施した「施設見学会」や「東京のまちづくり」等、会合や催し物に参加させていただき、皆さんとの交流を通じて充実した1年を過ごすことができました。皆さんが各団体を運営するにあたっては、後継者不足という大きな課題があると聞いていますが、「自然環境問題」、「高齢化問題」、「子ども健全育成」等、安全・安心な地域社会づくりに積極的に取り組んでいることに敬意を表します。また、今年度も2団体の新規ご紹介があり、会員の皆様の暖かいご協力とご支援に、心より感謝いたしております。

今年も事務局としてできる限りのご支援をさせていただくことを申し添え、新年のご挨拶とさせていただきます。今年もよろしくお願い申し上げます。

◆2025都民フォーラム開催「巨大地震・津波への備え」

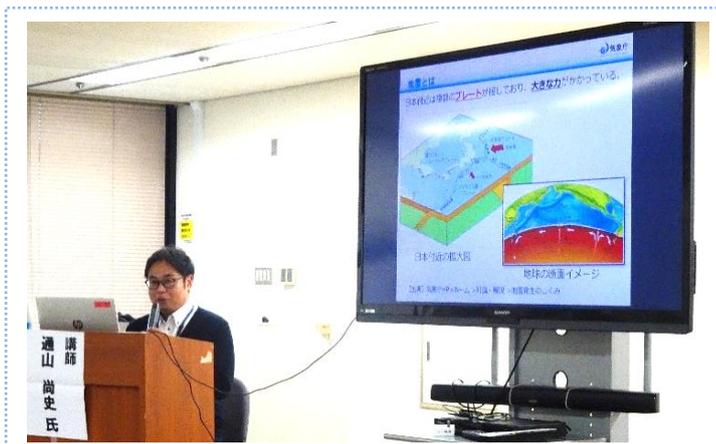
令和7年11月27日(木)に、公益社団法人東京のあすを創る協会主催の「2025都民フォーラム」を東京都消費生活総合センターで開催しました。このフォーラムでは、例年、「地球にやさしい環境づくり」をテーマにした講演を行ってききましたが、今年度は、「南海トラフ地震」、「首都直下地震」など、将来起こり得る巨大地震がいくつも存在している状況を踏まえ、「巨大地震と津波」をテーマとしました。

最初に、「東京のあすを創る協会」中井会長から挨拶があり、その後、東京管区気象台気象防災部地震火山課の通山(とおりのやま)震度観測管理係長から「巨大地震・津波への備え」と題し、講演を行っていただきました(参加者33名)。



具体的には、「1 地震とは」、「2 首都直下地震とは」、「3 地震の情報 と とるべき行動」、「4 発生するかもしれない地震に対する情報」の4点について講演をいただきました。

地震学では、揺れを起こす地下の岩盤のずれ(断層運動)を「地震」というとのことです。日本付近は、複数のプレートが接していますが、その動きは年に数cmで、人間の爪の伸び幅と同じくらいであるという話や、日本周辺での地震の回数は、2004年1月から12月まで震度1以上を観測した地震は約3,700回、震度1以下の回数を含めると約20万回ということです。また、首都直下地震の特徴や地震に対する備え、津波の仕組みや気象庁では津波のシミュレーションはどう行っているか等、幅広く説明をいただきました。通山係長、講演ありがとうございました。



2024年(令和6年8月8日)に、日向灘を震源とする宮崎県南部で最大震度6弱の地震が発生し、「南海トラフ地震」に関する関心が一挙に高まりました。一方、逆に、その宮崎県南部地震の約20年前(2004年10月23日)に発生した新潟中越地震、皆さん、ご記憶におありでしょうか。あちこちで発生した土砂崩れの犠牲になった人も多く、母子3人が取り残され、その車内から2歳の男の子が救出されたニュース映像を覚えている方もいると思います。

その新潟中越地震後に、震災の様々な記録や活動を残そうと関連する市や町と連携したプロジェクトに「中越メモリアル回廊」があります。その活動をよくご存じの方もいるかと思います。

しかし、あるマスコミの報道によると、その地震に関する伝承活動も時間の経過とともに、教訓を語り継ぐ語り部が引退し、その運営が厳しいとの新聞記事を目にしました。災害の経験の風化を防ぎ、日頃から防災対策をしっかりしていきたいと思います。

◆令和7年度東京のあすを創る協会功労表彰等選考委員会の開催

令和7年12月22日(月)に、令和7年度東京のあすを創る運動功労表彰等選考委員会を当協会事務所において開催しました。令和8年2月6日(金)に「推進大会」を開催し、当協会の運動にご尽力された団体・個人の方を表彰したいと思います。詳しくは、後日お知らせします。